

平成 29 年度 学内研究助成金 研究報告書

研究種目	<input checked="" type="checkbox"/> 奨励研究助成金	<input type="checkbox"/> 研究成果刊行助成金
	<input type="checkbox"/> 21 世紀研究開発奨励金 (共同研究助成金)	<input type="checkbox"/> 21 世紀教育開発奨励金 (教育推進研究助成金)
研究課題名	権力にカットイン —現代アメリカ演劇におけるアメリカ表象に切り込む—	
研究者所属・氏名	研究代表者：森本 道孝 共同研究者：	

1. 研究目的・内容

「カット」をキーワードに英米文学の世界における様々な描写を分析する。気鋭のアフリカ系アメリカ人女性演劇作家であるスーザン＝ロリ・パークスの代表作と言える『ヴィーナス』における解体と展示を分析し、そこから当然のものとされてきた白人男性中心のアメリカの歴史の解体と再構築の構造を読み取る試みである。

2. 研究経過及び成果

『トップドッグ／アンダードッグ』(*Topdog/Underdog*) で 2001 年にアフリカ系アメリカ人女性劇作家として初めてのピューリッツァー賞を受賞したスーザン＝ロリ・パークス(Suzan-Lori Parks) は、新進気鋭の作家として斬新な演劇スタイルを導入するなどの工夫を凝らし、アメリカ演劇の伝統ともいえる写実主義や物語性に「切り込んで」きた。

パークス劇を語るうえで、「解体」は一つのキーワードとなっている。「解体」に至るためには、連続しているものを「切断」し、選択し直し、並べ替え、再接合する、などの過程が必要となる。彼女は特に白人主体で語られてきた(作られてきた)アメリカの「歴史」、特に黒人たちの「歴史」を「解体」し、黒人たちの視点から「再構築」するために様々な試みをしてきている。『アメリカプレイ』(*America Play*) や、『トップドッグ／アンダードッグ』では、リンカーン大統領暗殺をモチーフにしており、遊園地のショーでこの暗殺をパロディ化し作品の中に持ち込み、大統領暗殺という歴史上の重大事件を解体し再構築しようとする。

そのような視座を持つ彼女の『ヴィーナス』(*Venus*) は、1996 年に初演され、異常なまでの大きな臀部を持つとされるホットtentott・ヴィーナス(Hottentot Venus)と呼ばれた実在のアフリカ人女性サーキ・バートマン(Saartjie Baartman)の半生をモデルに描いたものである。作品の主人公は Miss Saartjie Baartman / The Girl / The Venus Hottentot と様々な名前で登場する。奴隷だった彼女は、渡英したら金持ちになれるとイギリス人に騙して連れて来られ、その身体的特徴ゆえに大道芸人として、フリークスショーの見世物にされる。ショーの出し物とされることで、白人社会の「視線」の対象物となる彼女の存在は、後の「解体」後の「展示」との接続の点からみても、興味深いものである。彼女は、白人という巨大で逆らい難い力の持ち主のもとで、騙され、半ば強制的に連行され、多くの視線の前に晒される対象物になったのである。

そして、彼女はフランスに送られ天然痘で病死し、その遺体は解体され、医者からの関心からその脳と性器は人類博物館に長らく「展示」されることになった。ここでも医者という大きな権力が、死体という無力な対象物に対して、大きな力をふるう方法として、「切断」による「解体」がなされる。死後の身体の「解体」は、体を部位ごとに「切断」し、それぞれの重さを「計測」される。作品の中でも、それぞれの重さは詳細に説明される。この点で、身体の部品化につながる「切断」という作業の果たす役割は非常に大きいと考えられる。彼女は、生存中のみならず、死後もその部品化した身体を巨大な権力の前に去られる形で見世物にされ続けたのである。

このような身体の「切断」による「解体」を、パークスが掲げるアメリカの黒人の歴史の「解体」への試みの一つの形として読み込み、分析することを目的とする論文を、「スーザン＝ロリ・パークスの『ヴィーナス』における解体と展示」というタイトルで、平成 30 年度中に刊行予定の論集『新・阪大英文学会叢書(若手篇) 第 1 号 カット! —英米文学に切り込む』に掲載する予定である。なお、同論集の編集長も担当している。

3. 本研究と関連した今後の研究計画

科研費での研究テーマであるアメリカ演劇における老いをマスキュリニティの分析と連動する形で発想されたこのテーマ「権力に切り込む構造と、歴史の解体再構築という問題」をさらに発展させ、上記の諸問題に付随するアメリカ人男性たちのマスキュリニティへの関心や、男性版のアンチエイジングの問題の分析を、今後の研究課題とする。

4. 成果の発表等

発表機関名	種類(著書・雑誌・口頭)	発表年月日(予定を含む)
『新・阪大英文学会叢書(若手篇)第1号 カット!—英米文学に切り込む』	著書	平成30年12月(予定)